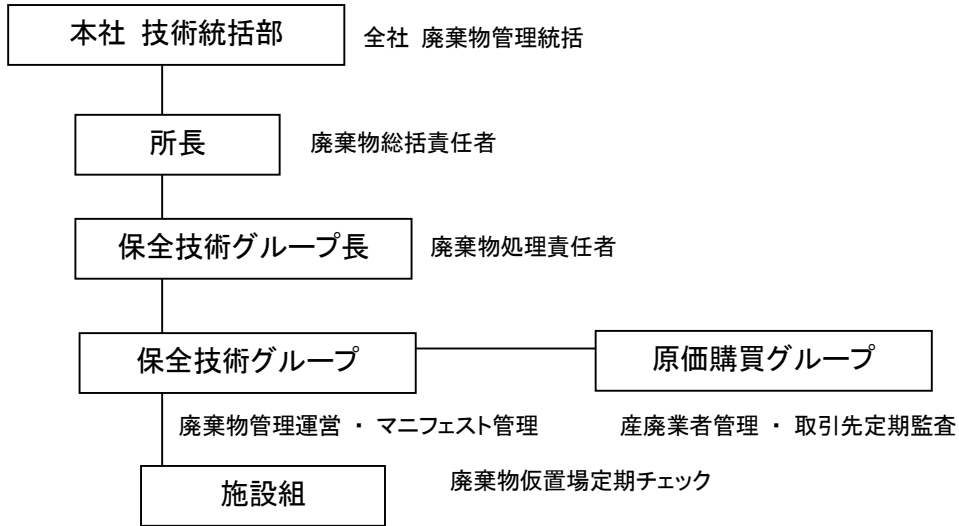


(第1面)

産業廃棄物処理計画書 平成24年 6月29日 〒141-8634 東京都品川区大崎1-2-2 トピー工業株式会社 代表取締役 藤井 康雄 愛知県知事 殿	
提出者 住所 〒442-8506 愛知県豊川市穂ノ原3丁目30番地 トピー工業株式会社 豊川製造所 氏名 所長 渡部 恒夫 (法人にあっては、名称及び代表者の氏名) 電話番号 0533-86-5121 (代表)	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	トピー工業株式会社 豊川製造所
事業場の所在地	愛知県 豊川市 穂ノ原3丁目30番地
計画期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
事業の種類	輸送機械器具製造業
事業の規模	製造品出荷額 1,750,800万円/年
従業員数	422人
産業廃棄物の一連の処理工程	乗用車オイル・自動車補修部品製造 汚泥 塗装排水を水処理脱水後中間処理業者に委託して乾燥路盤材再資源化 廃プラスチック類・廃油・木くず・金属くず・がれき類 中間処理業者に委託して溶融・破碎・選別等を行い再資源化と埋め立て最終処分に分類

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

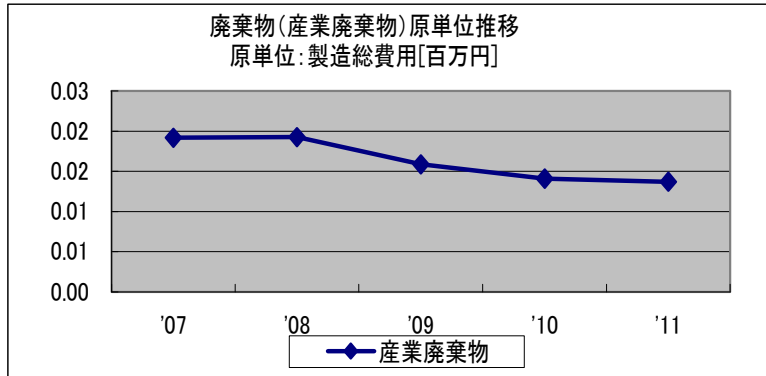
現状

【前年度(2011年度)実績】

産業廃棄物の種類	別紙による。	(産業廃棄物種類)
排出量	別紙による。	(23年度実績 a)

(これまでに実施した取組)

豊川製造所は、'98年11月に環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証取得を受け、環境マネジメントシステムに沿った取り組みを実施している。



産業廃棄物原単位削減計画により'07・'08年度をピークに工場の集約化を図り生産性と共に産業廃棄物削減を進めている。

計画

【目標】産業廃棄物削減1%(2011年度BM)

産業廃棄物の種類	別紙による。	(産業廃棄物種類)
排出量	別紙による。	(産廃処理計画数量)

		<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>乗用車イール工場生産性向上による合理化投資により、塗装ラインの集約化を図り、塗装廃液削減による処理汚泥及び塗料カス(廃プラ・廃油)の削減を継続して行う。</p> <p>廃プラスチックのパレット・プラタンの再生化の業者と契約を結び、産廃ではなく有価物として取引を行い、廃プラの削減を行う。</p>
産業廃棄物の分別に関する事項		
	現状	<p>(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>汚泥2種類、廃油5種類、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック5種類、木くず、金属くず2種類、ガラス陶磁器くず、鉋さい、がれき類に分別して保管している。</p>
	計画	<p>(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)</p> <p>廃プラスチック5種類の中で再資源化が可能な廃パレット・プラタンを別保管とする。</p>

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
現状	【前年度(2011年度)実績】 廃プラスチック(混合)		
	産業廃棄物の種類	別紙による。	(産業廃棄物種類)
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙による。 項	0.0 t
	(これまでに実施した取組) 廃プラスチックを分別し、合成ゴムの廃タイヤの破碎燃料リサイクル、梱包ビニールの溶融燃料化、などを実施していたが大物の廃パレット・プラタンは破碎して溶融燃料にしかならなかった。		
計画	【目標】 廃プラスチック(パレット・プラタンの有価物化)		
	産業廃棄物の種類	別紙による。	(産業廃棄物種類)
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙による。廃プラスチック(混合)の一部	5.0 t
	(今後実施する予定の取組) 廃プラスチックのパレット・プラタンを原料として有価で引き取るリサイクル業者が見つかり契約交渉を全社で行っている。		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
現状	【前年度(2011年度)実績】 熱回収 0		
	産業廃棄物の種類	別紙による。 項	(産業廃棄物種類)
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	1,244.3 t	0 t
(これまでに実施した取組) 塗料カスは焼却処分しているが、委託処理業者の焼却炉の熱改修率が低く認定されていない。 焼却炉の熱で汚泥の脱水を行っているが認定されていない。			
計画	【目標】 焼却処分の熱回収を推進する。		
	産業廃棄物の種類	別紙による。	(産業廃棄物種類)
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	1,244.3 t	0 t
(今後実施する予定の取組) 自ら中間処理にて焼却する熱の回収は焼却炉が無いため委託中間処理により実践している業者又は、現在の焼却炉を持っている業者に熱回収率向上を指導していく。			

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
現状	【前年度（2011年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙による。 項	(産業廃棄物種類)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 実施していない。		
計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙による。 項	(産業廃棄物種類)
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施する予定なし。		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
現状	【前年度（2011年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	廃水汚泥を除く 全産業廃棄物	
	全処理委託量	671.0 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	0 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	323.7 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) 収集運搬・処分のコストの削減及び省エネ法の輸送コスト削減と相まって製造所から近距離でコストが安く、処理能力が高く、再資源化のできる委託業者の選定を行ってきた。		

(第5面)

計画	【目標】リサイクルを促進し有価物化して産廃を削減する。		
	産業廃棄物の種類	廃水汚泥を除く 全産業廃棄物	(産業廃棄物種類)
	全処理委託量	666.6 t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	5 t	t
	再生利用業者への 処理委託量	330 t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	0 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	70t	t
	<p>(今後実施する予定の取組)</p> <p>優良認定業者に廃プラスチックの一部を処理委託して5.0t(0.7%)削減を目標に推進する。</p> <p>焼却処理の熱回収業を指導して熱回収認定取得をすすめ焼却処理約70tを委託する。</p>		
事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) 欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) 欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) 欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「 」を記入すること。
- 7 欄は記入しないこと。

別紙 産業廃棄物の種類別処理計画書

(NO 1/5)

1 事業場の概要

項目	内容	項目	内容	備考
事業場の名称	トピー工業株式会社 豊川製造所	従業員数(人)	422人	前年度の3月31日現在の従業員数記入
記入者名	保全技術グループ 安形 武	元請完成工事高(万円/年)		建設業の場合記入
連絡先	(電話) 0533-86-6215 (FAX) 0533-89-1310 (E-mail) ta-agata@topy.co.jp	製造品出荷額(万円/年)	1,750,800万円/年	製造業の場合記入

2 実施状況

項目	産業廃棄物の種類(名称)	汚泥	汚泥	廃油	廃油	合計
		(廃水処理汚泥)	(有機汚泥)	(ケイ土油泥)	(廃作動・潤滑油)	
平成24年度 産業廃棄物処理計画数量		1466.5	43.3	26.7	4.3	1540.7
23年度計画の実施状況(23年度実績)	a 不要物等発生量(t/年)	1,481.3	43.7	27.0	4.3	1,556.3
	b 有償物量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	排出量(t/年)(= a - b)	1,481.3	43.7	27.0	4.3	1,556.3
	② 自ら直接再生利用した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途					
	自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先					
	自ら中間処理した量(t/年)	1,481.3	0.0	0.0	0.0	1,481.3
	処理方法	B(脱水86%減)				
	自ら中間処理により減量した量(t/年)(= -)	1,244.3	0.0	0.0	0.0	1,244.3
	自ら中間処理した後の残さ量(t/年)	237.0	43.7	0.0	4.3	285.0
	自ら中間処理した後再生利用した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途					
	自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先					
	c 自ら中間処理した後の処理委託量(t/年)(c = - -)	237.0	0.0	0.0	0.0	237.0
	d 直接処理委託量(t/年)(d = - - -)	0.0	43.7	27.0	4.3	75.0
	直接及び自ら中間処理した後の処理委託量(t/年)(= c + d)	237.0	43.7	27.0	4.3	312.0
	e 埋立処分又は海洋投入処分の処理委託量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先		A 県内	A 県内		
	f 委託中間処理量(t/年)	237.0	43.7	27.0	4.3	312.0
	処理方法	B(乾燥20%減)	A(焼却80%減)	A(焼却80%減)	E(精製10%減)	
	g 委託中間処理により減量した量(t/年)	47.4	35.0	21.6	0.4	104.4
h 委託中間処理した後再生利用した量(t/年)	189.6	0.0	0.0	3.9	193.5	
再生利用用途	D(建材;路盤材)			B(燃料)	0.0	
i 委託中間処理した後埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	8.7	14.8	0.0	23.5	
埋立処分先		A 県内	A 県内		0.0	
j 再生利用量(t/年)(j = + + h)	189.6	0.0	0.0	3.9	193.5	
k 中間処理による減量(t/年)(k = + g)	1,291.7	35.0	21.6	0.4	1,348.7	
l 最終処分量(t/年)(l = + + e + i)	0.0	8.7	14.8	0.0	23.5	

- (注) 1 産業廃棄物発生・処理フロー図を参考に記載してください。
 2 再生利用用途コード A:原料・材料 B:燃料 C:飼料・肥料 D:建設材料 E:その他(具体的に記載)
 3 処理方法コード A:焼却・溶融 B:脱水・乾燥 C:破碎・圧縮 D:中和 E:その他(具体的に記載)
 4 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。なお、この場合、右上NO欄にページを記載してください。

別紙 産業廃棄物の種類別処理計画書

(NO 2/5)

1 事業場の概要

項目	内容	項目	内容	備考
事業場の名称	トピー工業株式会社 豊川製造所	従業員数(人)	422人	前年度の3月31日現在の従業員数記入
記入者名	保全技術グループ 安形 武	元請完成工事高(万円/年)		建設業の場合記入
連絡先	(電話) 0533-86-6215 (FAX) 0533-89-1310 (E-mail) ta-agata@topy.co.jp	製造品出荷額(万円/年)	1,750,800万円/年	製造業の場合記入

2 実施状況

項目	産業廃棄物の種類(名称)	廃油 (油軍手・ワス)	廃油 (水性切削油)	廃油 (油泥・塗料カス)	廃酸	合計	
	平成24年度 産業廃棄物処理計画数量		22.7	143.4	18.0		0.0
23年度計画の実施状況(23年度実績)	a 不要物等発生量(t/年)	22.9	144.8	18.2	0.0	185.9	
	b 有償物量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	排出量(t/年) (= a - b)		22.9	144.8	18.2	0.0	185.9
	② 自ら直接再生利用した量(t/年)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途						
	自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先						
	自ら中間処理した量(t/年)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	処理方法						
	自ら中間処理により減量した量(t/年) (= -)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自ら中間処理した後の残さ量(t/年)		22.9	144.8	0.0	0.0	167.7
	自ら中間処理した後再生利用した量(t/年)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途						
	自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先						
	c 自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (c = - -)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	d 直接処理委託量(t/年) (d = - - -)		22.9	144.8	18.2	0.0	185.9
	直接及び自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (= c + d)		22.9	144.8	18.2	0.0	185.9
	e 埋立処分又は海洋投入処分の処理委託量(t/年)		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先						
	f 委託中間処理量(t/年)		0.0	0.1	18.2	0.0	18.3
	処理方法		A (焼却90%減)	B (脱水乾燥98%減)	A (焼却90%減)	D (中和100%)	
	g 委託中間処理により減量した量(t/年)		20.6	142.0	16.4	0.0	179.0
h 委託中間処理した後再生利用した量(t/年)		0.0	2.8	0.0	0.0	2.8	
再生利用用途			A (燃料)			0.0	
i 委託中間処理した後埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)		2.3	0.0	1.8		4.1	
埋立処分先		A 県内		A 県内		0.0	
j 再生利用量(t/年) (j = + + h)		0.0	2.8	0.0	0.0	2.8	
k 中間処理による減量(t/年) (k = + g)		20.6	142.0	16.4	0.0	179.0	
l 最終処分量(t/年) (l = + + e + i)		2.3	0.0	1.8	0.0	4.1	

- (注) 1 産業廃棄物発生・処理フロー図を参考に記載してください。
 2 再生利用用途コード A:原料・材料 B:燃料 C:飼料・肥料 D:建設材料 E:その他(具体的に記載)
 3 処理方法コード A:焼却・溶融 B:脱水・乾燥 C:破碎・圧縮 D:中和 E:その他(具体的に記載)
 4 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。なお、この場合、右上NO欄にページを記載してください。

別紙 産業廃棄物の種類別処理計画書

1 事業場の概要

項目	内容	項目	内容	備考
事業場の名称	トピー工業株式会社 豊川製造所	従業員数(人)	422人	前年度の3月31日現在の従業員数記入
記入者名	保全技術グループ 安形 武	元請完成工事高(万円/年)		建設業の場合記入
連絡先	(電話) 0533-86-6215 (FAX) 0533-89-1310 (E-mail) ta-agata@topy.co.jp	製造品出荷額(万円/年)	1,750,800万円/年	製造業の場合記入

2 実施状況

項目	産業廃棄物の種類(名称)	廃アルカ	廃プラスチック類	廃プラスチック類	廃プラスチック類	合計
			(混合)	(梱包材)	(合成ゴム類)	
平成24年度 産業廃棄物処理計画数量		0.0	31.4	6.7	5.0	43.1
23年度計画の実施状況(23年度実績)	a 不要物等発生量(t/年)	0.0	31.7	6.8	5.0	43.5
	b 有償物量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	排出量(t/年) (= a - b)	0.0	31.7	6.8	5.0	43.5
	② 自ら直接再生利用した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途					
	自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先					
	自ら中間処理した量(t/年)		0.0	0.0	0.0	0.0
	処理方法					
	自ら中間処理により減量した量(t/年) (= -)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自ら中間処理した後の残存量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自ら中間処理した後再生利用した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途					
	自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先					
	c 自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (c = - -)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	d 直接処理委託量(t/年) (d = - - -)	0.0	31.7	6.8	5.0	43.5
	直接及び自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (= c + d)	0.0	31.7	6.8	5.0	43.5
	e 埋立処分又は海洋投入処分の処理委託量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先					
	f 委託中間処理量(t/年)	0.0	65.8	6.8	5.0	77.6
	処理方法	D(中和 100%)	A(焼却溶融70%減)	A(溶融 0%減)	C(破碎0%減)	
	g 委託中間処理により減量した量(t/年)	0.0	46.1	0.0	0.0	46.1
h 委託中間処理した後再生利用した量(t/年)	0.0	13.1	6.8	0.0	19.9	
再生利用用途		A(燃料)	A(燃料)		0.0	
i 委託中間処理した後埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	6.6	0.0	5.0	11.6	
埋立処分先		A 県内			0.0	
j 再生利用量(t/年) (j = + + h)	0.0	13.1	6.8	0.0	19.9	
k 中間処理による減量(t/年) (k = + g)	0.0	46.1	0.0	0.0	46.1	
l 最終処分量(t/年) (l = + + e + i)	0.0	6.6	0.0	5.0	11.6	

- (注) 1 産業廃棄物発生・処理フロー図を参考に記載してください。
 2 再生利用用途コード A:原料・材料 B:燃料 C:飼料・肥料 D:建設材料 E:その他(具体的に記載)
 3 処理方法コード A:焼却・溶融 B:脱水・乾燥 C:破碎・圧縮 D:中和 E:その他(具体的に記載)
 4 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。なお、この場合、右上NO欄にページを記載してください。

別紙 産業廃棄物の種類別処理計画書

(NO 4/5)

1 事業場の概要

項目	内容	項目	内容	備考
事業場の名称	トピー工業株式会社 豊川製造所	従業員数(人)	422人	前年度の3月31日現在の従業員数記入
記入者名	保全技術グループ 安形 武	元請完成工事高(万円/年)		建設業の場合記入
連絡先	(電話) 0533-86-6215 (FAX) 0533-89-1310 (E-mail) ta-agata@topy.co.jp	製造品出荷額(万円/年)	1,750,800万円/年	製造業の場合記入

2 実施状況

項目	産業廃棄物の種類(名称)	廃プラスチック類	廃プラスチック類	木くず	金属くず	合計
		(ビニール)	(廃タヤ)	(木パレット)	(集塵ダスト)	
平成24年度 産業廃棄物処理計画数量		3.0	1.5	96.4	10.3	111.2
23年度計画の実施状況(23年度実績)	a 不要物等発生量(t/年)	3.0	1.5	97.4	10.4	112.3
	b 有償物量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	排出量(t/年)(= a - b)	3.0	1.5	97.4	10.4	112.3
	② 自ら直接再生利用した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途					
	自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先					
	自ら中間処理した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	処理方法					
	自ら中間処理により減量した量(t/年)(= -)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自ら中間処理した後の残さ量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	自ら中間処理した後再生利用した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途					
	自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先					
	自ら中間処理した後の処理委託量(t/年)(c = - - -)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	d 直接処理委託量(t/年)(d = - - -)	3.0	1.5	97.4	10.4	112.3
	直接及び自ら中間処理した後の処理委託量(t/年)(= c + d)	3.0	1.5	97.4	10.4	112.3
	e 埋立処分又は海洋投入処分の処理委託量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先					
	f 委託中間処理量(t/年)	3.0	1.5	97.4	10.4	112.3
	処理方法	A(溶融 0%減)	C(破碎 0%減)	C(破碎 0%減)	E(選別 0%減)	
	g 委託中間処理により減量した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
h 委託中間処理した後再生利用した量(t/年)	3.0	1.6	97.4	0.0	102.0	
再生利用用途	B(燃料)	B(燃料)	A(原料;パルプ)		0.0	
i 委託中間処理した後埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	10.4	10.4	
埋立処分先				A 県内	0.0	
j 再生利用量(t/年)(j = + + h)	3.0	1.6	97.4	0.0	102.0	
k 中間処理による減量(t/年)(k = + g)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
l 最終処分量(t/年)(l = + + e + i)	0.0	0.0	0.0	10.4	10.4	

(注) 1 産業廃棄物発生・処理フロー図を参考に記載してください。
 2 再生利用用途コード A:原料・材料 B:燃料 C:飼料・肥料 D:建設材料 E:その他(具体的に記載)
 3 処理方法コード A:焼却・溶融 B:脱水・乾燥 C:破碎・圧縮 D:中和 E:その他(具体的に記載)
 4 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。なお、この場合、右上NO欄にページを記載してください。

別紙 産業廃棄物の種類別処理計画書

(NO 5/5)

1 事業場の概要

項目	内容	項目	内容	備考
事業場の名称	トピー工業株式会社 豊川製造所	従業員数(人)	422人	前年度の3月31日現在の従業員数記入
記入者名	保全技術グループ 安形 武	元請完成工事高(万円/年)		建設業の場合記入
連絡先	(電話) 0533-86-6215 (FAX) 0533-89-1310 (E-mail) ta-agata@topy.co.jp	製造品出荷額(万円/年)	1,750,800万円/年	製造業の場合記入

2 実施状況

項目	産業廃棄物の種類(名称)	金属くず	ガス・陶磁器くず	鋳さい	がれき類	合計	集計
		(混合)	(混合)	(アルミダスト)	(混合)		
平成24年度 産業廃棄物処理計画数量		1.5	5.0	0.0	10.7	17.1	1896.1
23年度計画の実施状況(23年度実績)	a 不要物等発生量(t/年)	1.5	5.0	0.0	10.8	17.3	1,915.3
	b 有償物量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	排出量(t/年) (= a - b)	1.5	5.0	0.0	10.8	17.3	1,915.3
	② 自ら直接再生利用した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途						0.0
	自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先						0.0
	自ら中間処理した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,481.3
	処理方法						0.0
	自ら中間処理により減量した量(t/年) (= - -)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,244.3
	自ら中間処理した後の残さ量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	452.7
	自ら中間処理した後再生利用した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	再生利用用途						0.0
	自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先						0.0
	c 自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (c = - - -)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	237.0
	d 直接処理委託量(t/年) (d = - - -)	1.5	5.0	0.0	10.8	17.3	434.0
	直接及び自ら中間処理した後の処理委託量(t/年) (= c + d)	1.5	5.0	0.0	10.8	17.3	671.0
	e 埋立処分又は海洋投入処分の処理委託量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	埋立処分先						0.0
	f 委託中間処理量(t/年)	1.5	5.0	0.0	10.8	17.3	537.5
	処理方法	C(破碎 0%減)	C(破碎・選別 0%減)	E(選別 20%減)	C(破碎 0%減)		0.0
	g 委託中間処理により減量した量(t/年)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	329.5
h 委託中間処理した後再生利用した量(t/年)	1.0	4.5	0.0	0.0	5.5	323.7	
再生利用用途	A(原料)		A(原料)			0.0	
i 委託中間処理した後埋立処分又は海洋投入処分した量(t/年)	0.5	0.5	0.0	0.0	1.0	50.6	
埋立処分先		A 県内	A 県内	A 県内		0.0	
j 再生利用量(t/年) (j = + + h)	1.0	4.5	0.0	0.0	5.5	323.7	
k 中間処理による減量(t/年) (k = + g)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1,573.8	
l 最終処分量(t/年) (l = + + e + i)	0.5	0.5	0.0	0.0	1.0	50.6	

- (注) 1 産業廃棄物発生・処理フロー図を参考に記載してください。
 2 再生利用用途コード A:原料・材料 B:燃料 C:飼料・肥料 D:建設材料 E:その他(具体的に記載)
 3 処理方法コード A:焼却・溶融 B:脱水・乾燥 C:破碎・圧縮 D:中和 E:その他(具体的に記載)
 4 記入欄が不足する場合は、コピーしてお使いください。なお、この場合、右上NO欄にページを記載してください。